

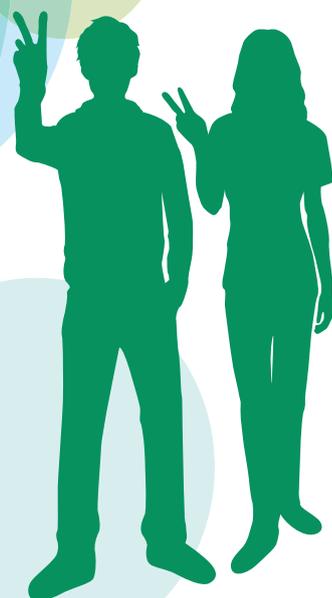
自立UPプロジェクト

ITを活用した若者就労支援プロジェクト

自立・就労のために 施設でITを教えよう！

【実践報告・マニュアル集】

自立UPプロジェクトは、
児童養護施設および自立援助ホームの若者たちが、
就労に役立つITスキルやITを活用した就職活動の
仕方などを学ぶプロジェクトです。



自立UPプロジェクト

ITを活用した若者就労支援プロジェクト

自立UPプロジェクトとは……

本プロジェクトは、2011年1月～2012年3月に、日本マイクロソフト株式会社（以下、マイクロソフト）と東京ボランティア・市民活動センターが協働して実施した「ITを活用した就労支援」です。児童養護施設および自立援助ホームの若者たちを対象として、就労に役立つITスキルやITを活用した就職活動の仕方などを学ぶ講習やセミナーを提供することにより、仕事の選択肢を広げ、就労の機会を拡大することを目的としています。プロジェクトでは、施設の職員をIT講師として養成することにより、施設において継続的にITスキル講習を行う仕組みづくりに取り組みました。今後も、ポータルサイトを通じてITスキル講習のテキストや就労支援のためのコンテンツなどを公開することで、全国の若者および施設職員にも情報やリソースを提供していきます。マイクロソフトと東京ボランティア・市民活動センターはプロジェクトの参加施設と協力しつつ、NPOや他の企業に連携の輪を広げながら、児童福祉施設の若者たちを支援していきます。

プロジェクトの意義・特長……

1. 児童養護施設および自立援助ホームでの就労支援にITを本格的に導入

マイクロソフトがITを活用した就労支援をしてきたノウハウと実績を活かして、施設において、これまであまりITが活用されていなかった現状に対し、本プロジェクトによって若者たちにITの重要性とその可能性を伝え、ITスキルのトレーニングを提供しました。

2. 児童養護施設および自立援助ホーム職員のエンパワーメント

施設職員に対し、IT講師としての養成研修およびプロジェクトの運営管理研修を行うことにより、プロジェクト終了後も、自立発展的に各施設がITスキル講習と就労支援を組み合わせて実施していけるような能力開発と仕組みづくりを行いました。

3. 児童福祉施設におけるITを活用した就労支援を展開するためのパッケージの開発

本プロジェクトを通して、対象とする若者たちのニーズにあったオリジナルのITスキル講習のカリキュラムやテキスト、就労支援のためのコンテンツ等を開発し、また運営ノウハウを蓄積してパッケージ化することにより、全国にある児童福祉施設でのITを活用した就労支援をサポートします。

contents

世界中の人々とビジネスの可能性を 最大限に引き出すために。

マイクロソフトは、ITによって若者たちの可能性を最大限に引き出す支援をしています。

最新のOSやソフトウェアを使ったITスキル講習を通して、プロジェクトに参加した若者たちがITの知識のみならず、ビジネスの場面でのITの活用方法について学ぶことで、仕事の選択肢や就労の機会を広げて欲しいと思います。プロジェクトを通じて、若者たちが安定的な雇用に就くことを支援することで、若者の雇用と社会保障という課題に貢献することを目指しています。

日本マイクロソフト株式会社
代表執行役 社長

樋口泰行



コミュニティITスキルプログラム

自立UPプロジェクトはマイクロソフトの「コミュニティITスキルプログラム」の一環で実施しています。

マイクロソフトは、企業ミッションである「世界中のすべての人々とビジネスの持つ可能性を最大限に引き出すための支援をすること」に基づき、コミュニティITスキルプログラムというITを活用した就労支援プログラムを世界各国で展開しています。

日本では2003年から本プログラムを開始し、ITを利用する機会があまりなかった方々に対し、ITを活用した社会参画や就労の機会を拡げていただくための支援に取り組んでいます。これまでに17種類のプロジェクトを実施し、約4万人の方々にITスキル講習などを受講していただいています。

02

自立UPプロジェクトとは

03

日本マイクロソフトからのメッセージ

04

ITスキル活用のメリット
ITスキルの必要性

06

実施施設へのインタビュー
「自立UPプロジェクトを
実施してみました」

10

ITスキル講習の実施方法

10 全体の流れ

12 ITスキル講習の講師について

14 IT環境の整備

16 子どもたちへの動機づけ

18 テキストなどの使い方

20 就労支援の方法

22 講習スケジュールの立て方

ITスキル活用のメリット 自立支援・就労支援にITを活用しよう！

ITスキルの必要性

社会に出る前の若者たちにとって、ITスキルを身につけることには
どのようなメリットがあるのでしょうか？

ITスキルの必要性を確認してみましょう。

就活セミナー「おしごとカフェ」第1回より 講師：(株)フェアスタート 永岡鉄平さん

就ける仕事の種類が増える

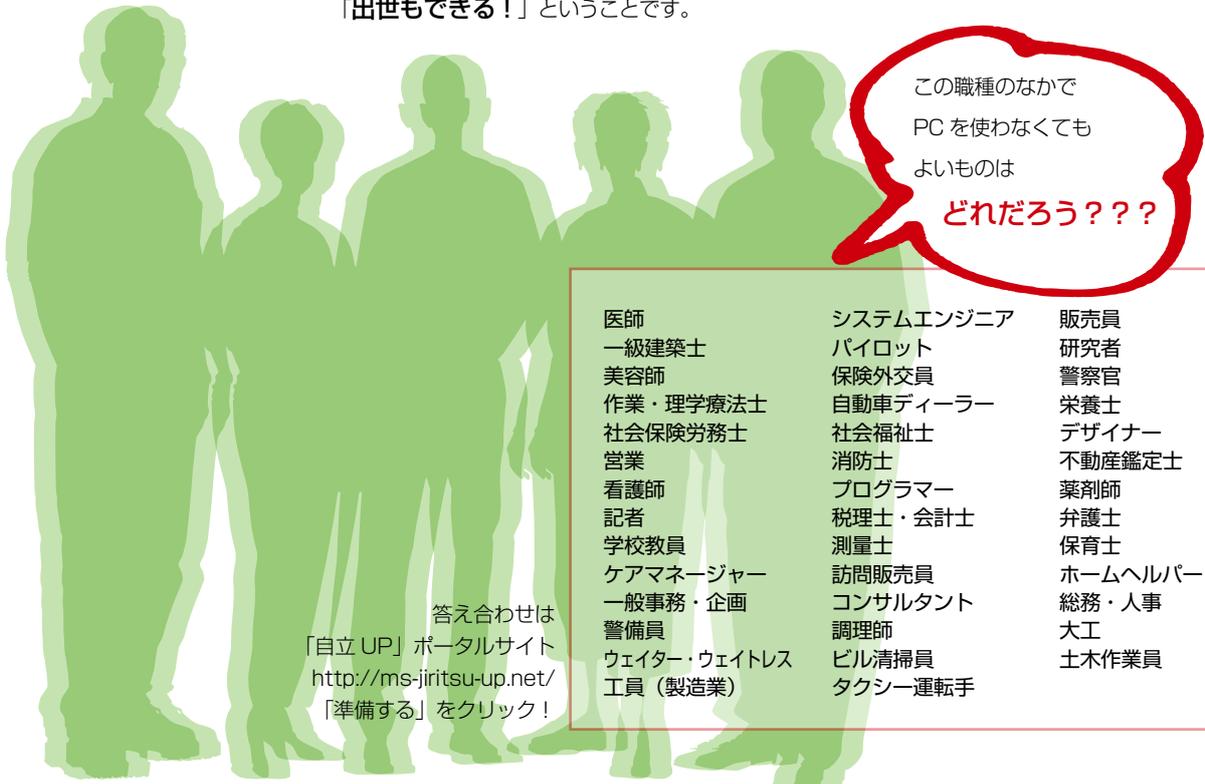
今の社会で、ITスキルがあまりなくても就ける仕事はごく一部です。

さらに、「店長さん」などといった管理職になろうと思ったら、

PCスキルは絶対に必要になります。

しかし逆に言えば、「PCスキルがあれば就ける仕事の種類が増える！」

「出世もできる！」ということです。



この職種のなかで
PCを使わなくても
よいものは
どれだろう???

- | | | |
|-------------|-----------|---------|
| 医師 | システムエンジニア | 販売員 |
| 一級建築士 | パイロット | 研究者 |
| 美容師 | 保険外交員 | 警察官 |
| 作業・理学療法士 | 自動車ディーラー | 栄養士 |
| 社会保険労務士 | 社会福祉士 | デザイナー |
| 営業 | 消防士 | 不動産鑑定士 |
| 看護師 | プログラマー | 薬剤師 |
| 記者 | 税理士・会計士 | 弁護士 |
| 学校教員 | 測量士 | 保育士 |
| ケアマネージャー | 訪問販売員 | ホームヘルパー |
| 一般事務・企画 | コンサルタント | 総務・人事 |
| 警備員 | 調理師 | 大工 |
| ウェ이터・ウェイトレス | ビル清掃員 | 土木作業員 |
| 工員（製造業） | タクシー運転手 | |

答え合わせは
「自立UP」ポータルサイト
<http://ms-jiritsu-up.net/>
「準備する」をクリック！

就職活動が有利になる！

就職活動をしようと思った時、まず初めに行うのは
「求人を探すこと」です。

今の時代、インターネット上に、**求人情報が
たくさん載っている**ことを知っていますか？

ということは、PCが使えれば、
インターネットにアクセスし、たくさんの求人を
見つけることができるということです。

会社で頼りにされる！

会社の上司や先輩（特に高齢の方）の本音は
「イマドキの若者はPCが得意なんでしょ？」

「だって学校でPCの授業あるんでしょ？」……。

このような方々は、PCを使うことが苦手だったりします。
でも、**これってチャンス**ですよ！

もしPCが使えれば、
会社で頼りにしてもらえます。

自立UP受講生は
どんなふうに変化した？



今後の人生を送るなかで、「あのときやったから！」と
チャレンジする武器になったり、
選択肢を広げる材料になる
と考えている。受講してよかった！

今まで飲食店で働いていた受講生。
**「今後は、
事務の仕事に就きたい！」**
と求職活動を始めた。

なかなか施設に来なかつた卒園生。
講習を受けることで、
本人の意識のなかで
「働かないとまずい」
という気持ちが生まれてきた。

就労を意識するようになり、
**講習時間外も
タイピングの練習**に
やってくるようになった。

インターネットが
利用できるようになり、自分たちで
**「社会人のマナー」
「面接のときの服装」**などを
自主的に調べるようになった。

さまざまな仕事で
ITスキルが役立っている



ペットリマー

お客さまの情報を管理し、それをもとに
ダイレクトメールやメールマガジンを送る
帳簿や商品の仕入れの管理をする
インターネットで、動物の手入れのやり方
や病気への対処法など、仕事に関連する
情報を検索する……など

学校の先生

テストや授業の資料、保護者向け案内を
作成する
生徒の成績などの情報を管理する
インターネットで、授業や教育に関する
情報収集をする……など

ベーカリー ケーキショップ店員

レシピや材料の仕入れ、帳簿の管理をする
お店のホームページに、商品の情報や
お店の様子を載せてお客さんにアピール
店内に貼る商品説明やチラシを作成する
……など

老人ホームの 介護士

利用者の健康状態を記録する
利用者の家族にお知らせや
メールマガジンを送る
インターネットで介護に関する情報を
収集・検索する……など

事務職

計画書や企画書などのビジネス書類を作成
社外、社内の人たちとEメールで
コミュニケーションする
インターネットで仕事に必要な情報を収集
したり、自分の会社のホームページで情報
発信をする……など



社会福祉法人至誠学舎立川理事長
日本児童養護実践学会会長
法政大学名誉教授

高橋利一氏

児童福祉施設そのものが経済的な理由もあり、なかなかIT化が進んでいないという実態があります。一方、施設に暮らす高齢児童の数は増えており、こうした子どもたちの自立支援に、より力を入れていくことが大きな課題となっています。今回、日本マイクロソフト社より最新のソフトウェアやPC、オリジナルのテキスト、職員の研修、子どもたちの就労支援といったハードとソフトの両面にわたるご支援を受けることによって、施設の中で、継続的に子どもたちにITスキルを教えることが可能となりました。このことは子どもたちがこれから夢をもって、仕事の選択肢を広げ、自立していく大きな力となるはずです。

実施施設へのインタビュー 自立UPプロジェクト実施施設に聞く

「自立UPプロジェクトを 実施してみました」

自立UPプロジェクトを実施した児童養護施設と自立援助ホームに
実施した経緯や実施方法、成果、課題とそれをどのように改善したのかなど
さまざまなお話をおうかがいしました。

子どもたちへの動機づけ

「自立UPプロジェクト」を実施するとなつたとき、どのようにして子どもたちに参加を促しましたか？

救世軍機恵子寮（児童養護施設、以下機恵子寮）

…ITを勉強することが自立や就労に役立つことを説明しました。学校で学ぶことではありますが、学校によっても差があります。2、3年後に施設から自立していくときに、私たちが思っている「PCができる」という基準が、社会が求めている基準に達していないのではないかという話をしました。

我流や見よう見まねではなく、基礎から学ぶ必要があるし、PCで仕事の書類を作れることが、仕事にどれくらい求められているものなのかを話しました。

マナの家（自立援助ホーム）…ITスキルがこれからの世の中に必要だということは、むしろ子どもたち（寮生）のほうが知っていました。私たち職員も初心者レベルでしたが、「IT講師養成研修で学んで使えるようになったよ」など、日々寮生に話していました。

寮生には、「全員強制というわけではなく、できるだけみんな参加しましょう」という形で知らせましたし、退寮生にも、IT

スキルが仕事にいかせたらよいという子どもたちには、声をかけました。

あすなろ荘（自立援助ホーム）…基本的に自由参加でした。私たちは、自立のために彼らが「何かをしたい」と言ったときに、それを準備したいとつねづね考えてきました。以前にも高等学校卒業程度認定試験の勉強会をしたことがあります。

今回は、ITスキルがあるだけで求人幅が広がるし、本人たちの自信にもつながる。だから、「とにかくやってみよう！」ということになりました。

二葉学園（児童養護施設）…はじめに各グループホームに向けて「こういうパソコン講座があります」とFAXを流しました。「全部で32時間あり大変だけど、就職にも絶対に役に立つ」と書いておきました。その後、参加希望者を集めて、テキストを見せながら内容を説明して、スケジュールを発表しました。夏休みに短期集中で実施しようと思っていたので、先にスケジュールを決めておいたんです。

子どもたちに参加を促すために特別なことはしていません。ただ「仕事に役立つ」というよりも、「ITスキルを身につけることで、自分の可能性が広がる」というよう

なプラスの言葉を添えて、子どもたちに伝えられたらいいなと思っていました。

PCの使える環境づくり

施設のIT環境はどのようになっているのでしょうか？ 今回のプロジェクト用に環境を設定するのに苦労されましたか？

機恵子寮…プロジェクトから寄贈してもらったPCを使いました。事務所はインターネットが使える環境なのですが、子どもだけが使える環境ではなくて、これから、どのように改善していこうか、話をしている状況です。ですから、ITスキル講習で、「セキュリティ」を学んで、「インターネットは便利だけれど、気をつけることもある」と分かったことは大きかったですね。ボランティアの方が説明してくださったので、すんなりと理解できたと思います。

マナの家…私たちの事務所もインターネットにつながりますが、子どもたちが使うことはできません。

今回寄贈していただいたPCをLANでつなげたり、セットアップするのが難しく、ボランティアの方にすいぶんと手伝っ

実施施設の感想

2011年度に
自立UPプロジェクトを実施した
21施設へのアンケートより

子どもたちへの影響

はじめは乗り気でなかった子どもが、必要性に気づき、熱心に取り組みはじめた。

子どもたちの新たな可能性を見つけられた。

講習を受けた子ども全員がPCに興味を持ってくれた。

子どもたちも予想以上に集中していた。

グループホーム、本園など、生活の場が違う子ども同士でコミュニケーションが取れた。

ふだん目立たなかった子がPC初心者の子に教える姿を見ることができた。

————— これからの世の中、ITスキルが必要だということは、むしろ子どもたちのほうが知っていた。

————— 「自分の可能性が広がる」というプラスの言葉を添えて子どもたちに伝えたい。

————— 子どもたちが「何かをやりたい」と言ったときに、私たちはそれを準備したい。



ていただきました。

あすなる荘…私たちは自立援助ホームなので、各部屋でインターネットに接続できるようになっているのですが、PCは自分で買わなければなりません。リビングにもPCを置いているのですが、そこからはインターネットにつながらないようにしています。

そこで、ITスキル講習のときは、「早く終わった人は自由にインターネットを使ってよい」ということにしました。これが、彼らのやる気につながったような気がします。

二葉学園…本施設の場合は、講習用に使うプロジェクトの設定がうまくいかなくて、ボランティアの方にかなりお手伝いいただきました。

もともと講師になった2人の職員はITに弱かったので、この機会に覚えようがんばりました。

職員(講師)の負担は？

ITスキル講習の講師はどのような体制でしたか？

機恵子寮…私たちは職員2名体制で行いま

した。日頃、ITスキルの弱さを感じていたので、プロジェクトに参加して、とても勉強になりましたね。子どもたちと一緒に学び、他の仕事にも役立っています。施設のIT化にも役立ったと思います。職員も自信がつかしました。

マナの家…そうですね。PCの基礎を教えていただいて、仕事に生かすことができ、ありがたかったです。

いざ教えるとなると、前もって準備しておかないと難しいですね。まずは、私たちがテキストで何回も予習してから、教える必要があることを痛感しました。ボランティアの方にすいぶん助けてもらいました。

あすなる荘…私たちの施設も、講師は職員が行いましたが、フォローの部分はボランティアの方にお願いしました。ちょうど夕食の時間帯に講習時間を設定していたのですが、職員がごはんの準備をしながら教えていたのですが、そんなときもボランティアの方に助けてもらいました。

職員やボランティアの人数、受講生の事情によって、講習の仕方は柔軟に変えていけると思うので、状況が変われば、体制も変わっていくと思います。

二葉学園…職員は2人体制だったので

が、準備したり、フォローの側にまわったり、お互いに役割分担できたので、講師は最低2人は欲しいと思いました。

初めは、私たちもどういう感じになるのかイメージできなかったのですが、職員だけでできることはやっていこうと考えてました。次回からは、1人の負担を減らせるよう、講師3人体制でできないか模索中です。

ボランティアの協力

「ボランティアの協力」というお話が出ましたが、よかったことや配慮すべき点などはありますか？

機恵子寮…スケジュールはだいたい1ヶ月前に決まっていますが、どこまで頼んでよいか悩みました。受講生がドタキャンすることもあるとあって、ボランティアの方に対して申し訳ない気持ちもありました。

ただ、ふだん接している職員ではなく、外部の人が教える良さがありますから、ボランティアの方のお力もお借りしたいと思っています。職員とボランティアの二者がもっと密に、子どもたちの個性などを話し合っ、情報を共有し、どこまでボラン

一つの自信につながるものを持つことができ、前向きになれている。

苦手意識を持っていた子どもが、楽しく学び、「PCが使える」と思いはじめています

興味があることなので、講習に関しては、毎回遅れず、欠席せず、参加し続けている。

ボランティアの方とのふれあいのなかで、関わりを学び、社会性を養っている。

ホーム以外の人と直接関わりを持つ機会を作ることができた。

子ども同士のつながりをより豊かにしている。

アルバイト先で、講習で学んだことをいかせた。

就職活動の際、インターネットで情報を調べることができた。

ITについての興味・関心が広がってきた。

「みんなで決めた約束だから」と、
アルバイトの予定を自分自身で調整していた。

自分がかんばったことが評価され、それが積み重なって
自信につながっていく経験ができた。

「これしかない」ではなく、「これを選ぶことができた」……
そんなふうに仕事を選んで欲しい。

ティアの方に頼めるかをイメージできれば
いいのかなと考えています。

マナの家…私たちの場合は、本来の趣旨と
は違うのかもしれませんが、ボランティア
の方に講師をしてもらい、本格的な PC 教
室の雰囲気で行うことになりました。

職員ではなく外部の方が教えるという
ことで、日常生活から気持ちの切り替えが
できたのがよかったと思います。日頃のな
れ合いではない緊張感がありました。うまく
できない子や遅れて来た子のフォロー、
ボランティアの先生が来られないときの講
師を、私たち職員が担いました。

あすなる荘…一般事務をしている女性ボ
ランティアの方に、ずっと来ていただいで
いました。ボランティアは初めてだとお聞
きしていましたが、とても良い方で、テン
ポがずれてしまった子などをフォローして
もらっていました。

職員は、講習時間にも別の仕事がありま
したから、アシスタント的に受講生を見て
いただけたので、本当に助かりました。

二葉学園…ボランティアの方には 2 回来
ていただきました。「セキュリティ」と「ワー
ド」の回だったと思います。

実際に PC を使って仕事をされている方

の話が聞けましたし、セキュリティについ
てはスマートフォンを使いながらいろいろ
と教えてくださったり……。私たちが教え
るよりも、実際に仕事をされている方の
言葉には重みがあり、すごくよかったな
と思っています。

スケジュールの立て方

忙しい職員と子どもたち、さらにボラン
ティアの方とスケジュールを合わせるのは
難しかったのではないのでしょうか？

機恵子寮…私たちの施設では受講生が
6 人いましたから、前もって細かいスケ
ジュールを立てました。欠席者が多くて流
れてしまうようなことが起きると、6 人の
予定を再度合わせられないからです。ただ、
最初に「自立のために IT スキルは必要だ」
というところから始まっているので、「み
んなで決めた約束だから」とアルバイトの
予定を自分たち自身で調整していました。

マナの家…全員がそろろう日ということで土
曜日に開催していました。でも、実際にス
ケジュールを合わせるのは難しいですね。
退寮生もいたので、なかなか仕事の都合

がつかないということがありました。

あすなる荘…自立援助ホームは、職員と寮
生が「社会人」として対等なんです。寮
生もほぼフルタイムで働いていますから、
定期的集まることは難しいし、スタッフ
の予定に合わせるのも大変だから、とりあ
えずお互いにスケジュールをすり合わせた
……。そんな感じでした。

二葉学園…日程を決めて、4 時間単位で
行いました。32 時間を時間通りに行うの
が、この IT スキル講習の方針だと思うの
ですが、受講生がわりとすぐにできてどん
どん進められたので、「今日はこれで終わ
り」ということにして早めに解散したりと
か、予定より先まに進むことを見越してス
ケジュールを組んだり、柔軟に対応しま
したね。

就労支援の方法

就労支援については、どんなことを行いま
したか？ その成果はどうでしたか？

機恵子寮…まず、IT スキルを身につける
ことが、自立をしたときに役立つというこ
とを、たえず子どもたちに自覚してもらい

職員への影響

子どもたちと PC を通して
ふれあえる時間を持てた。

ふだんの生活では引き出せない
子どもの能力に気づいた。

IT スキル講習を教えていくなかで、
さらに PC に対する知識が深まった。

一定期間、学習会を実施したのは初めてで
担当職員の自信につながった。

職員のスキルアップにつながっている。

職員自身の IT スキルが再確認できる。

子どもたちが教え合い、助け合うなど、
職員の知らない意外な一面を見ることができた。

子どもとのコミュニケーションが増えた。

どうやったらうまく教えられるか
工夫していたら、習得できた。

IT スキルが上がり、
業務に生かせる場面もあった。



ました。ボランティアの方など、外部の方と関わることで、社会性を養っていただけました。特に、東京ボランティア・市民活動センターが施設とつないでくれる支援者や協力団体について説明しましたね。応援してくれるところ、見守ってくれるところがある、と。そして、日本マイクロソフト社を見学させてもらって、こういった企業もあるということがわかり、社会に向けて自立していくんだという実感が持てたんじゃないかと思います。

マナの家…自立援助ホームは、子どもたち自身が寮費を払い、自分で働き、収入を得て生活しています。入寮したら、働き口を探すことが最優先なので、「仕事を見つけるために、ITスキルをまず身につけましょう」と言うよりは、「ITスキルがあれば、よりよい仕事でできる」という声かけをしています。

あすなる荘…児童養護施設であれば「就労のための準備」ですけれど、私たちのところは「現在就労中」なんです。準備なんてしている暇はない、とにかくもう生活しないとイケないし、お金を稼がないとイケない。

でも、「この仕事がしたい」と思ったと

きに「あ、このスキル・経験があるからできる」という自信を持って欲しいのです。いろんな選択肢がある中で「これしかなかった」ではなく、「この中からこれを選ぶことができた」と思えたほうが良いと思っています。

二葉学園…児童養護施設には、自信のない子がたくさんいます。そういう意味では、自分がかんばったことが評価され、それが積み重なって自信になることは、すごく大きな意味があったと思います。ボランティアの方や日本マイクロソフト社の方の話が聞けたりしたのも、とても大きな経験になったと思いますね。

救世軍機恵子寮（児童養護施設）

実施時期 ● 7～2月 29週間
 実施頻度 ● 月1～2回程度（未実施の月あり）
 受講者数 6人
 担当職員 1～2人 ボランティア 1～2人

マナの家（自立援助ホーム）

実施時期 ● 8～12月
 実施頻度 ● 8回（月1～2回）
 受講者数 5人
 担当職員 4人 ボランティア 1人

あすなる荘（自立援助ホーム）

実施時期 ● 9～2月
 実施頻度 ● 週1回（各2時間ずつ）
 受講者数 4人
 担当職員 1人 ボランティア 1人

二葉学園（児童養護施設）

実施時期 ● 7～11月
 実施頻度 ● 夏休み中に実施（以降計画的に実施）
 受講者数 3人
 担当職員 1～2人 ボランティア 1人

施設への影響

IT知識、スキルを教える機会、PCなど今までなかったものを得ることができた。

一つの目的に向けて意識を共有できていることがチームワークにプラスになっている。

各寮舎、各ホームの生活体系のため、職員・児童が顔を合わせるよい機会になっている。

ボランティアの方に自立援助ホームに関心を持ってもらい、子どもたちも社会との関係性を経験できた。

外部、内部ともに信頼関係を高めることができた。

職員が教えるため、リアルタイムにいつでも教えることができ、継続していける点はとても有効だと思う。

ホームのポスターなどを子どもとともに作っている。

ITスキル講習の実施方法 ITスキル講習を実施しよう！

ITスキル講習 全体の流れ

実施するとき、何を、いつ、準備すればいいの？



各施設に合った方法で柔軟に始めよう！



STEP 1 講習の担当者を決めよう！

まずは講習の担当者を決め、施設長や他の職員に理解してもらえよう、働きかけてみましょう。協力体制が得られると、以降の手順がスムーズに進みます。

- 講習の担当者を決めよう！
- ITスキル講習の目標を考えよう！
- 施設長や他の職員にプロジェクトの意義を伝えよう！
 - ・なぜITスキルが必要なのか？
 - ・ITスキル講習で目指すものは何か？
 - ・参加・協力の参加呼びかけ

➡ P04・05
P16・17

ITスキル講習を実施したいと思ったら、以下の手順に沿って準備をしていきましょう。あまり「〇〇がないのでできない」と思いすぎずに、取り入れられる部分だけを実施してもOK！各施設に合ったやり方を考えて、柔軟に取り組んでみてください。

STEP 2 講師を決めよう！

講習の担当者が講師になってもよいですし、PCが得意な職員にお願いしたり、ボランティアを募りましょう。

- 講師を確保しよう！
- 講師の役割を分担しよう！
 - 可能であれば、メイン講師とアシスタントのペアで教えましょう。
- ボランティアを募ろう！
 - ・講師を募集する？
 - ・アシスタントを募集する？

➡ P12・13

準備することリスト

- PCの調達**
 - ・PC寄贈プロジェクトに応募する
 - ・地元企業・個人から寄贈を募る
 - ・ボランティア（市民活動）センターやNPOセンターに相談する
- OS・ソフトウェアのインストール**

社会福祉法人、NPO法人等であれば、TechSoup Japan（テックスープジャパン）から、最新のWindowsやOfficeを安価で購入できます。
<http://www.techsoupjapan.org/>
- インターネット環境の整備（必要であれば）**

インターネット講習をしない場合は必要ありませんが、インターネットは自立・就労情報を得るためにも重要なので整備を推奨。
- テキストの準備**

ポータルサイト（<http://ms-jiritsu-up.net/>）より、ダウンロード可能。受講人数分プリントアウトして配布。テキストは自習可能です。



➡ P19

自立UPプロジェクトのITスキル講習のテキストは、自習方式で勉強し、わからないところだけ講師に質問するという形式のもので、ある程度ITスキルがあれば、誰でも講習を指導することができます。

STEP3 受講者を募ろう！

PCに関心がある、インターネットを使いたい、就労や自立のためにITスキルを学んだほうがよい子どもに声をかけてみましょう。

- 受講候補者をリストアップしよう！
- 受講候補者に、動機づけを行おう！
 - ・ITスキルの意味／受講の目標／修了で得られるもの
- 受講希望者を集めて説明会を行おう！
 - ・ITスキル講習の内容や進め方を紹介
 - ・スケジュールの確定や受講にあたっての決まり事を説明

➡ P16・17
P22



学校の授業などでITスキルを学んでいる場合には、希望の回のみ（例えばワードのみ、エクセルのみなど）選択して受講することもよいでしょう。受講希望者と話し合いながら、一人ひとりにあったプログラムを作ることが可能です。

STEP4 IT環境を整備しよう！

必要なPCを確保し、ソフトウェアをセットアップしましょう。

受講生用のID・パスワードを発行してください。

- PCを確保しよう！
- LAN環境を作ろう！（可能であれば）
- 必要な最新のソフトウェアをセットアップしよう！
- インターネットに接続しよう！（可能であれば）
- 受講会場を確保しよう！

➡ P14・15

！ もともとITに詳しい人が施設内にいない場合、IT環境を整えるのが難しいかもしれません。そんなときは、ボランティアの力を借りましょう。ボランティアについてはボランティア（市民活動）センターやNPOセンターに相談してみてください。

STEP5 ITスキル講習を実施しよう！

いよいよITスキル講習がスタート！スケジュール通りに進まなくても、遅れた受講生には補講を行うなどして、臨機応変に進めていきましょう。

- 受講生がきちんと理解できているかチェック！
- 応用編となる課題を与えてみよう！（必要であれば）
- 就労支援とからめられる企画を用意しよう！（必要であれば）
- 発表会などを企画しよう！（必要であれば）

➡ P18・19
P20・21



ITスキル講習の実施方法 複数の人材で講師を担うチーム形式で行おう！

ITスキル講習の講師について

ITスキルを誰が教えればいいのか？



施設職員が教えることのメリット

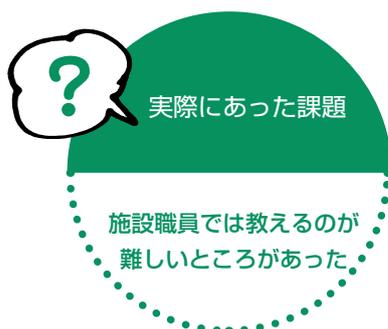
ITスキル講習を施設の中で実施したいと思ったとき、もっとも悩むのが、「誰が教えるか？」ということではないでしょうか。自立UPプロジェクトでは、施設職員の方々にIT講師養成研修を行い、各施設2名以上が参加しました。

施設職員が基本的なITスキルを教えることができると、子どもたちの状況をよく把握しているので、その子どもにわかりやすく教えることができます。また、今回参加した施設からは、「必要な時にいつでも教えられ、今後も継続できることは、とても有効な支援だと思う」というコメントも多くありました。

それ以外にも、「子どもがPCに興味を

しめして熱心に取り組んだり、他の子どもに教えてあげるなど、ふだんわからなかった児童のよい面を発見することになった」、「子どもたちとのコミュニケーションが深まった」「子どもたちの将来へのモチベーションを高める新しい支援ができた」という成果もあったようです。

さらに、職員のITスキルや指導力の向上となり、日常の業務にも活かされていたり、「ひとつの目的に向かって職員同士が協力しあうことによって、チームワークが高まった」など、職員自身や施設の支援力を強化することにもなります。



積極的にボランティアに協力してもらおう！

前述したとおり、施設職員が教えることのメリットはたくさんあるのですが、職員は子どもたちの日常生活への支援で非常に忙しかったり、進度や理解度が違う複数の子どもたちに教えるなければいけなかったり、職員が教えるににくいITスキルがあったりと、職員だけで講師を担うのが大変な場合も多々あります。

そこで、注目したいのがボランティアの協力です。今回、参加した施設では、「遅れがちな子どもにボランティアが対応してくれた」、「どうしても他のことで対応し

なければならないときはボランティアにお願いした」、「セキュリティについてはボランティアの人に教えてもらうと説得力がある」など、ボランティアが職員をサポートしながら、より丁寧に子どもたちに教えることが可能となりました。

さらに、社会人や大学生などのボランティアと子どもたちが交流することで、社会性を身につけたり、将来の進路について考えるきっかけにもなったようです。

ボランティアの募集方法

ITスキル講習にボランティアの協力をお願いしたい場合は、

以下のような方法があります。

- ①施設のホームページ上でITボランティア募集をする
- ②IT教育・学習支援・自立支援をしているNPOやボランティア団体に依頼する
- ③近隣の大学や企業にボランティアをお願いする
- ④各地にあるボランティア（市民活動）センターに相談する

ボランティアとの連携

ボランティアに協力してほしいけれど、子どもたちの状況が急変し、「ドタキャン」してしまうかもしれないのでお願いできないといった悩みもあるようです。

その場合は、ITスキル講習の開始前にボランティアに対して、施設や子どもたちの状況を説明し、講習の目的やボランティアにお願いしたい内容、配慮してほしい点などを伝えましょう。また、急に中止とな

る場合の連絡方法やその際の対応も決めておきます。

子どもたちが参加できない場合でも、ボランティアに施設に来てもらい、休んだ子どもの補習について相談をしたり、職員にITスキルを教えてもらうのもよいかもしれません。ボランティアと相談してみてください。



<http://www.microsoft.com/ja-jp/learning/mcp/mct/>

マイクロソフト認定トレーナー（MCT）について

講師としてのスキル向上にあたり、マイクロソフト認定トレーナー（MCT）の取得を目標とすることも可能です。

MCTは、知識や技術だけでなく、「教える・伝える技術」も備えたトレーナーであることを証明するマイクロソフトの資格です。技術スキルを証明する資格（MOS等）に加え、「教える・伝える技術」の資格条件を満たせば、どなたでも取得いただくことが可能です。

詳しくは、公式サイトをご覧ください。

<http://www.microsoft.com/ja-jp/learning/mcp/mct/default.aspx>

資格取得にあたり費用がかかりますが、特に「教える・伝える技術」はITスキル講習の実施だけでなく、支援活動に応用できる価値あるものです。

ITスキル講習の実施方法 完璧な整備は不要。臨機応変に対応しよう！

IT環境の整備

PCの確保、インターネットへの接続、実施場所をどうしたらいいの？



PCを確保しよう！

児童福祉施設で子どもたちが使えるIT環境が整っているところは少ないのが現状です。外部からの支援も活用しながら、臨機応変に対応しましょう。

まず、ITスキル講習を施設で行うためにはPCの確保が必要です。中古PCを購入する、あるいは寄付してもらう、IT関係の専門学校の教室や公共施設のPCルームを借りるという方法もあるでしょう。

また、施設職員だけではIT環境の設定が難しい場合は、すでに先行して実施している施設に相談したり、業者や信頼できるボランティアの協力を求めましょう。

● PC確保の方法

NPO・ボランティア向けPC寄贈に応募
PC寄贈を行っている企業、NPOなどがあります。インターネットで「PC寄贈」を検索すると、情報を得ることができます。

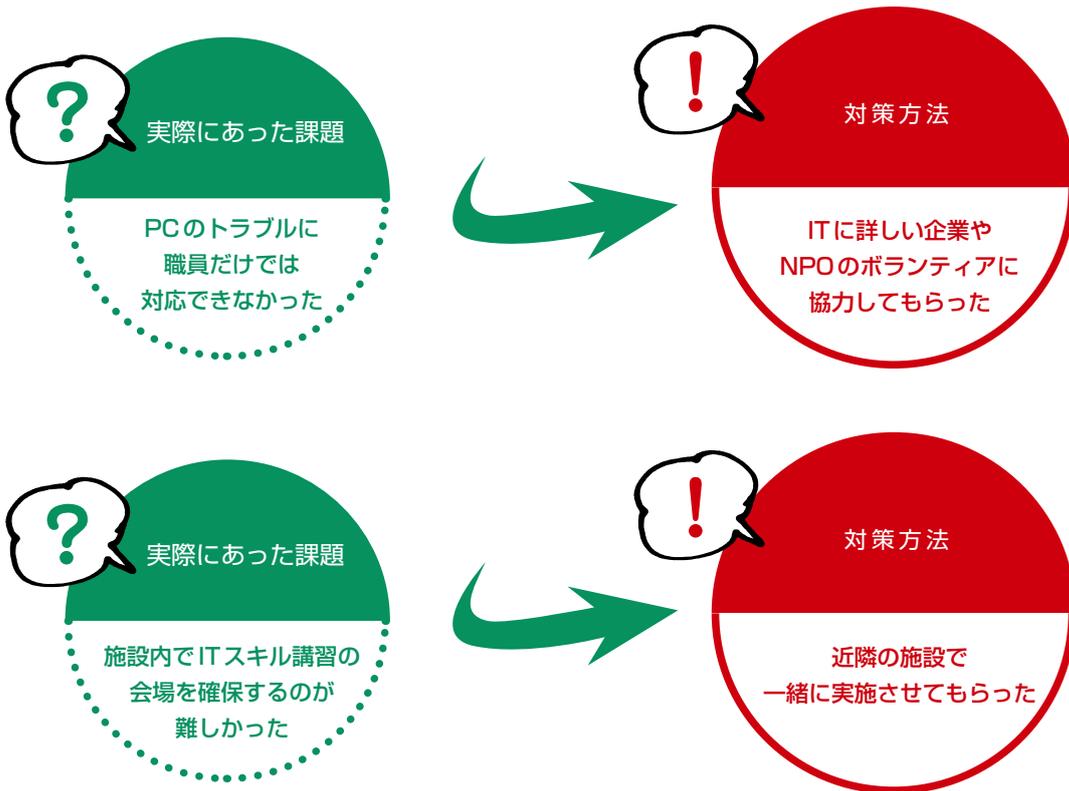
地元企業・専門学校などからの寄贈

企業や専門学校などでオフィスのPCを入れ替えるときなどに、寄贈してもらえることがあります。各地のボランティア(市民活動)センターやNPOセンターに相談すると、提携できそうな企業を紹介してもらえることがあります。

個人からの寄贈

個人からPC寄贈を受けるには、注意が必要です。しっかり条件を伝えていないと、使用できないPCが集まってしまい、廃棄するために逆にお金がかかってしまったということになりかねないからです。

個人に呼びかける場合には、ノート型なのかデスクトップ型なのか、CPU、メモリはどのくらい必要なのかなど、こちらの求める条件を明確にして募集しましょう。



インターネットに接続しよう！

インターネットのトラブルが起きることを心配し、子どもたちにはインターネットを使わせないという施設もあります。しかし、近い将来、自立するときにインターネットの安全な使い方を知らないと、非常に危険ですので、施設にいる間に学んでおきましょう。自立のための進学や就労についての有益な情報もインターネットからたくさん得られます。

自立 UP テキストの「パソコン基礎&セキュリティ」の中では、PC をウイルス感染から保護する方法を学びます。また、マイクロソフト「セーフティとセキュリティ

センター」サイトでは、ソーシャルネットワークの安全な使い方やインターネット上での個人情報の守り方などが解説されています。

さらに、一般財団法人マルチメディア振興センターでは、総務省、文部科学省、企業等との連携の中で、子どもをネット社会の被害者にしないために、保護者や教職員を主に対象とした「インターネット・携帯電話の安全な使い方」についての研修を実施し、ボランティア講師を無料で派遣しています (e-ネットキャラバン)。

なお、IT スキル講習用の PC と施設の業務用の PC が LAN 環境でつながっていると、業務用 PC を覗くこともできる場合もありますので、それぞれの PC にユーザーアカウントやパスワードを設定することをお勧めします。



▲マイクロソフト
「セーフティとセキュリティ」
<http://www.microsoft.com/ja-jp/security/>



▲「e-ネットキャラバン」
<http://www.e-netcaravan.jp/>

実施場所をどこにするか？

子どもたちにとっては施設の中で IT スキル講習が受けられると、とても参加しやすいことは間違いありません。しかし、一方で、普段の生活の場であるため、気持ちの切り替えがむずかしいというデメリットもあります。

そこで、大切なのは子どもたちが学ぶ気持ちになる「空間づくり」。施設の中の会議室、食堂などの公共スペースを使いながら、「社会に出て困らないための IT スキルを身につける場所・時間であることを子どもたちに何度も話した」という施設もありました。ふだんあまり会うことが少ないグループホームの子どもたちが本園に

集まり IT スキル講習を受けることで子どもたち同士の交流が深まったというメリットもあったようです。グループホームが遠くに離れている場合は、それぞれの場所で教えたところもありました。

施設の中に十分な広さの会場がない、インターネットの接続ができないなどの理由で実施が難しい施設は、近隣の IT 環境が整っている施設に出かけて行って実施しました。施設の外で実施することで、気持ちの切り替えができたり、また、2つの施設の職員同士が協力し、両施設の子どもたちと一緒に教えることも可能となります。

ITスキル講習の実施方法 ITスキルが実際にどのように役立つか伝えよう！

子どもたちへの動機づけ

受講希望者をどう集め、継続させたらいいの？



ITスキル講習の目的・メリットを伝えよう！

施設職員が子どもたちのためにITスキル講習を実施しようとしても、「すでに学校で学んでいる」、「クラブ活動や仕事・アルバイトで忙しい」という理由で関心をしめさない子どもも多いかもしれません。

前者の子どもたちには、学校で学んだことで忘れていたりやわからなかったことを確認できるし、もっと使いこなせるようになることを伝えます。また、後者の忙しい子どもたちには、就職活動や仕事でITスキルが必要なことを説明します。「ITが仕事にどう役立つか」については自立UPプロジェクトのポータルサイトの中に掲載している「おしごと・カフェ（第1回）」をご参照ください。また、社会人のボランティ

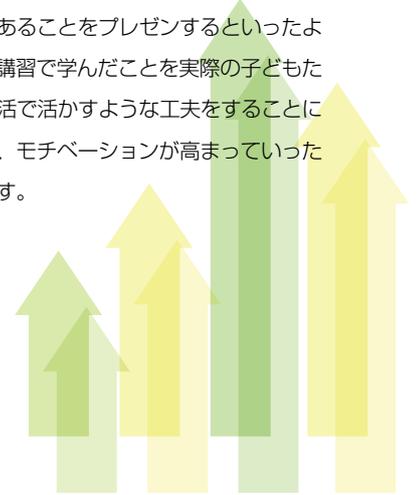
アに、仕事の中でITをどのように活用しているかを話してもらうのもよいでしょう。

興味に合わせた課題を与えよう！

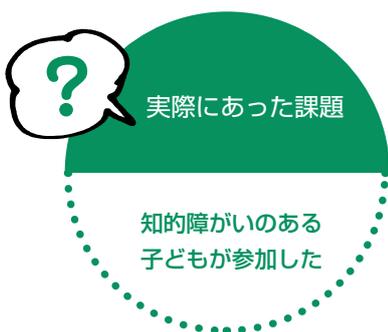
自立UPプロジェクトは5つの講座があり、合計32時間程度の学習になります。最初からすべての講座を受けることを目的としないで、子どもが興味のある講座からスタートしてみてもいいでしょうか。そして、1つの講座が終わるたびに達成感が味わえるような「修了証」や簡単なお祝いをするのもよいでしょう。

今回実施した施設の中には、ITスキル講習に参加すると、毎回の講習の後にインターネットが使えるようにしたら、子ども

たちの出席率が高まったということもありました。また、Wordのスキルを活かして、日記を書いたり、施設の行事案内のチラシを作ったり、Excelでおこづかい帳をつけたり、PowerPointでは、自分たちの関心のあることをプレゼンするというように、講習で学んだことを実際の子どもの生活で活かすような工夫をすることによって、モチベーションが高まっていったようです。



ITスキル講習
スタートアップ・ガイド
http://ms-jiritsu-up.net/study/pdf/start_up.pdf



実践事例に見る IT スキル講習の 成果

IT を通じて子どもの課題克服…機恵子寮（児童養護施設）

Aくんは高校3年生。本人の能力的な課題もあり、中学時代から英語の取り組みが難しく、ローマ字の取得が困難でした。これまでの支援では、ローマ字表を用いて学習を続けてきましたが、自分のローマ字の名前も覚えられなかったのです。

今回の講習で、スタッフ側は「Aくんだけは、かな入力もやむを得ない」と考え

ていましたが、本人の意識が高く、早い段階でローマ字入力ができるようになりました。「パソコンを使えるようになりたい」という一心で、課題を克服した様子。本人にとっては大きな自信となり、スタッフとしても非常にうれしい成長だったそうです。

新しい視野が広がった子どもたち…マラナ・タハウス（自立援助ホーム）

もともとPCに触れるのが好きだったAくん。開始当初は「遊びたい」などの理由で講習をさぼることが多かったそうです。しかし、途中からITスキルの必要性を感じ始めたようで、積極的に参加するようになりました。仕事が軌道に乗り自信がつけられたこと、自立して一人暮らしをはじめた時期が近づいてきたことから、必要性を感じたのかもしれないと、スタッフは感じ

ていました。

また、社会人ボランティアと知り合ううちに、視野を広げられた子ども、PCスキルとは縁遠いように見えた子どもも講習を楽しんでいたと言います。

ITスキル講習によって、一人ひとりが新しい視野を持つことができたこと、スタッフは手応えを感じているようです。

将来を見据えて考えはじめた…あすなろ荘（自立援助ホーム）

それまで仕事をしていないこともあって、なかなかあすなろ荘に来ることはなかったという卒園生のAさん。しかし、この講習のために週に一回はホームを訪れるようになり、講習の前後にはスタッフと就労や生活の話などができるようになりました。講習を受けながら、本人の中でも「働かなければマズイ」という気持ちが生

まれたようです。

卒園生の中には、講習時間外もやってきて、タイピングの練習をする子どももいます。また、同じ法人の児童養護施設の子どもたちも、講習場所である自立援助ホームを訪れることによって、寮生やホームの様子を知り、施設を退所した後のイメージができています。

ITスキル講習の実施方法 ポータルサイトを使いこなそう！

テキストなどの使い方



「自立UP プロジェクト」ポータルサイトを使いこなそう！

ITスキル講習をはじめようと思ったら、まずは「自立UP プロジェクト」ポータルサイトをチェックしてください。ここでは、①学ぶ、②準備する、③働くの3つのカテゴリーに分け、ITスキル講習の実施方法などが記載されています。

①「学ぶ」のカテゴリーでは、ITスキル講習の内容解説のほか、テキスト、講習用データ、達成シートなどをダウンロードすることができます。

②「準備する」のカテゴリーでは、就労支援のためのコンテンツが掲載されています。ITスキルの可能性、職業選択のヒントなどが満載です。

③「働く」のカテゴリーでは、自立の道を切り開いた先輩たちからのメッセージを読むことができます。



▲「自立UPプロジェクト」ポータルサイト

<http://ms-jiritsu-up.net/>

テキストのダウンロードをはじめ、就労支援のための講習映像、先輩達のメッセージなど、多くの情報が集約されています。

ITスキル講習の内容

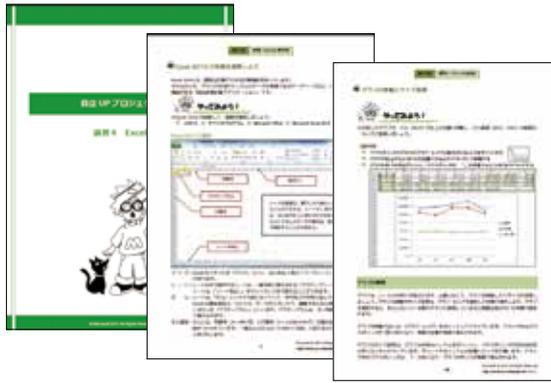
講習1	パソコン基礎&セキュリティ	講習時間	全4時間
<p>●パソコン基礎…パソコンの仕組みを理解し、ファイルやフォルダーの操作を学びます。電源の入れ方やマウスの使い方など、基本から説明しています。(講習時間のめやす2時間)</p> <p>●セキュリティ…パソコンを使う上でのセキュリティの重要性と、コンピューターをウィルスなどへの感染から保護するやり方を学びます。(講習時間のめやす2時間)</p>			
講習2	インターネット&電子メール	講習時間	全4時間
<p>●インターネット…インターネットを使って提供されるさまざまなサービス、ウェブページの閲覧や電子メール・チャットなどでのコミュニケーション、データの保管や受け渡しなどについて学びます。(講習時間のめやす2時間)</p> <p>●電子メール…いまや多くの仕事の場でコミュニケーションの手段として使われています。電子メールの作成のやり方、書類や写真の添付のやり方などを学びます。(講習時間のめやす2時間)</p>			
講習3	ワード	講習時間	全8時間 (2h×4単元)
<p>文書作成に使われるソフトウェア「ワード」は、仕事において、資料や手紙などを作成するために使われています。この講習では、見栄えのよいビジネス文書を作成するやり方を学びます。(講習時間のめやす8時間)</p>			
講習4	エクセル	講習時間	全8時間 (2h×4単元)
<p>データの管理や計算などに使われるソフトウェア「エクセル」は、仕事において、売上などのデータを管理するために使われています。この講習では、データから表やグラフを作成するやり方を学びます。(講習時間のめやす8時間)</p>			
講習5	パワーポイント	講習時間	全8時間 (2h×4単元)
<p>パワーポイントは、人前で発表する際(プレゼンテーション)の資料を作成するために使われるソフトウェアです。この講習では、視覚的な効果を利用した説得力のある発表資料を作成するやり方を学びます。(講習時間のめやす8時間)</p>			



自習も可能なわかりやすいテキスト

ITスキル講習のテキストは、学校などでPCを習った子どもなら、テキストを渡すだけで、一人でも学んでいくことができるでしょう。

また、テキストは詳細に解説されているので、IT講師の資格や経験がなくても、ある程度のITスキルを持っていれば、テキストに沿って教えることが可能です。



初心者に対するアプローチ

まず、パソコンの電源の立ち上げと終了、タイピング、マウスの使い方をサポートしましょう。くわしくはポータルサイトの「ITスキル講習の実施方法」をご覧ください。

理解度チェックに「達成度シート」

ポータルサイトから、受講者用達成度シート、講師用達成度シートをダウンロードすることができます。それぞれの回で習う講習内容を確認し、理解度をチェックしたり、講師が各受講生の学習の進捗を確認し、複数の講師間での引継ぎ事項を記載するためのものです。ぜひご利用ください。

◀受講者用達成度シート
受講スケジュールや理解度を記録できるようになっています。

ITスキル講習に使えるサイト

マイクロソフト 初心者向けページ	PC初心者にもわかりやすいトラブル対処法を厳選して紹介 http://support.microsoft.com/gp/beginnerpage	
Office2010 初心者向けページ	Office 2010 を使うコンピューター初心者にもわかりやすいサポート情報や発生しやすい問題の解決方法を紹介 http://support.microsoft.com/gp/beginnerpageoffice2010	
マイクロソフト コミュニティ	フォーラムに投稿することで、マイクロソフト製品について詳しい方からのアドバイスや役立つ情報が得られるページ http://answers.microsoft.com/	
マイクロソフト サポート	製品別サポートページや技術サポート窓口、製品の購入などができるページ http://support.microsoft.com/	

ITスキル講習の実施方法 さまざまな就労支援の手法を取り入れよう！

就労支援の方法



働くことの意識を高めよう！

●仕事をしている人の話を聞こう！

社会人の方々から、その仕事の内容や魅力、職業に必要な資格や条件など、具体的な話を聞くことは、子どもたちの仕事に対する意識を高める第一歩となります。

ボランティアや地域の方々、企業やNPOの方々などをお招きして、お話を聞くチャンスを作りましょう。

●主な正社員求人情報サイト

タウンワーク社員	http://townwork.net/O6_lac_01/Fh00140s_osf_3/
フロム・エー社員ナビ	http://froma.yahoo.co.jp/s/p/shain/F10010Ss.jsp?red=0
社員ロコドコネット	http://yumexnet.jp/kanto/shain/
an レギュラー	http://regular-shigoto.weban.jp/
ハローワークインターネットサービス	https://www.hellowork.go.jp/

●ポータルサイトをチェックしよう！

自立UPプロジェクトのポータルサイトの「準備する」カテゴリで、就労支援のコンテンツを見ることができます。

「ITは仕事の可能性を広げる」はITスキル講習の実施前に見ておくと、講習のモチベーションアップに役立ちます。



▲ポータルサイト「準備する」
<http://ms-jiritsu-up.net/prepare/>



いろいろなスキルを身につけよう！

●公共の職業訓練を受けよう！

雇用保険を受給している求職者向けの「公共職業訓練」、雇用保険を受給できない求職者のための「求職者支援訓練（求職者支援法に基づく認定職業訓練）」など、無料または安価で職業訓練を受けることができる制度があります。ハローワークやジョブカフェ、地域若者サポートステーション（サポステ）で相談してみましょう。



▲求職者支援訓練認定コース情報検索
<http://nintei.jeed.or.jp/kyushokushien/search/>
全国の求職者支援訓練認定コースを検索することができるサイト。

●サポステやハローワークを利用しよう！

サポステやハローワークでは、スキルアップのための訓練やセミナーを実施しています。

特に、全国16ヶ所のサポステでは、若者UPプロジェクトを受けることができ、より専門的なITスキル講習を受けることができます。くわしくは若者UPプロジェクトポータルサイトへ。



▲若者UPプロジェクト
<http://www.ms-wakamono-up.jp/>

履歴書・面接などの就活ノウハウ

履歴書の書き方や面接のコツなど、就職活動に関するノウハウは、インターネットで検索すると、多くのサイトを見つけることができます。

自立UPプロジェクトのポータルサイトでも資料を掲載しているのでご覧ください（「準備する」カテゴリにあります）。ハローワークやサポステなどでも、多くの講座・セミナーが行われていますので、まずはこうした就労支援機関のご利用をおすすめします。



地域若者サポートステーションを利用しよう！

児童養護施設や自立援助ホームではなかなかできない就労支援については、地域若者サポートステーション（サポステ）に相談してみませんか。全国100ヶ所以上に設置されたサポステでは、就労にまつわるいろんな相談に対応しています。求人情報が欲しければハローワーク、職業訓練が必要ならば最寄りの職業訓練施設といった具合

に、その地域の多くの就労支援機関と連携していますから、まずはサポステで相談してみることが自立への近道となります。

また、就労意欲に乏しかったり、無職期間が長い若者に対しても、キャリアコンサルタント／キャリアカウンセラーや心理カウンセラーが対応していますので、安心して相談することができます。



▲ニートサポートネット

<http://www.neet-support.net/>

全国のサポステを検索できるほか、サポステ以外の支援施設も検索することができます。

●自立・就労支援関連団体の一例

ハローワーク	職業相談・職業紹介の他に就職に必要な資格・経験・職業訓練コースなどの情報提供を行う。障害のある人のための窓口や福祉分野を希望する人のための「福祉人材コーナー」、非正規労働者の再就職支援をする「キャリアアップコーナー」、住居喪失者の住宅確保の相談に応じる「安定就職コーナー」、育児をしながらの就職希望者のための「マザーズコーナー」なども設置している。
福祉人材センター・バンク	各都道府県の社会福祉協議会が設置する福祉分野で働くことを希望している人を対象とした職業相談・職業紹介。
地域若者サポートステーション	働くことに悩みを抱えている15歳～39歳くらいまでの若者のための就労支援センターで、相談や研修等を実施している。マイクロソフト社との『若者UPプロジェクト』に受講生として参加し、ITスキルを学ぶこともできる。
ジョブカフェ (若年者就業支援センター)	各都道府県が所管し、若者の能力向上や就職促進を目的に、職場体験や職業紹介等の支援を行っている。
障害者雇用支援センター	職業準備訓練から就職・職場定着までの相談・援助を行う。
職業能力開発促進センター	求職者や在職者を対象とし短期間の職業訓練を行う。
人材紹介(人材バンク)	民間企業による職業紹介。
人材派遣会社	派遣社員として働くところを斡旋する民間企業。
株式会社フェアスタート	児童養護施設・自立援助ホームの子どもたちの職業相談・職業紹介を行う民間企業。 http://fair-start.co.jp/
NPO法人 エンジェルサポートセンター	児童養護施設や里親と暮らす子どもたちを対象として、自立支援プログラムを実施。 http://angel-npo.org/
NPO法人 ブリッジフォースマイル	児童養護施設の子どもたちを対象として、職場体験や就労支援、自立支援プログラムを実施。 http://www.b4s.jp/
ゆずりは	児童養護施設や自立援助ホームを出た子どもたちの生活全般の相談・支援を行っている。社会福祉法人子どもの家が運営。 http://asunaro-yuzuriha.jp/
NPO法人日向ぼっこ	児童養護施設等で生活していた人たちが運営している。児童養護施設を出た人たちが交流したり、相談ができる。 http://hinatabokko2006.main.jp/
NPO法人3keys(スリーキーズ)	児童養護施設・自立援助ホームの子どもたちの学習支援を行っている。 http://3keys.jp/
NPO法人キッズドア	児童養護施設や地域のひとり親の子どもたちの学習支援を行っている。 http://www.kidsdoor.net/

ITスキル講習の実施方法 早めの対応と自習型テキストがポイント！

講習スケジュールの立て方

どうやって講師と子どもの時間を確保すればいいの？



忙しい子どもたちと施設職員の状況にあわせよう！

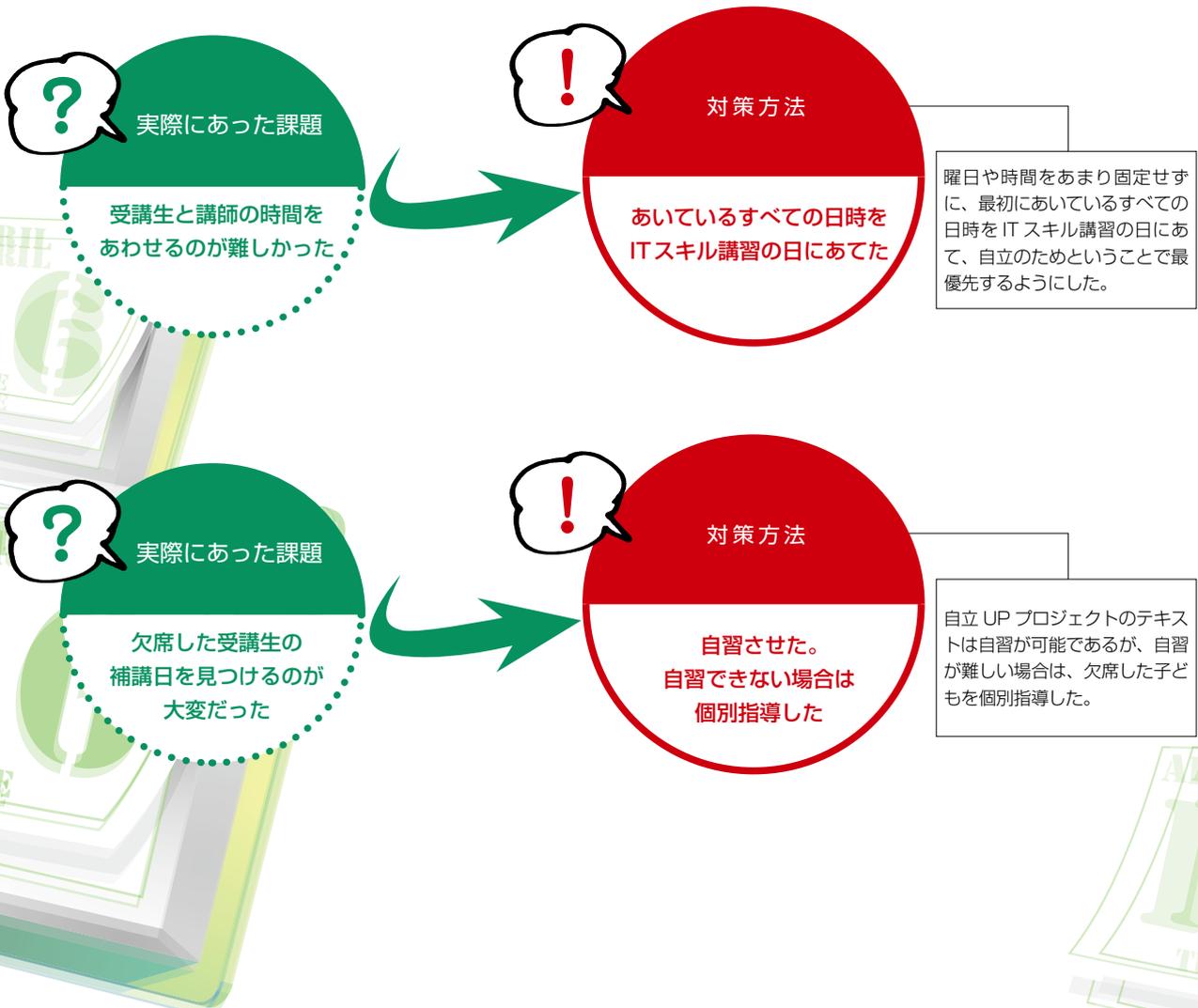
学校・仕事・施設の関係で忙しい子どもたちと日々の業務に追われる施設職員の両者の日程を毎回あわせるのはほぼ不可能です。まず、開始前にすべてのスケジュールを決めてしまい、子どもも職員もそのスケジュールを優先するようにします。この場合、曜日・時間を決めて行う「定期スタイル」と夏休みなどの長期休暇を利用する「短期集中スタイル」の2つが考えられます。

曜日、時間を決めて行う定期スタイル

だいたい曜日・時間を決めて、毎週少しずつ行っていくスタイルです。どうしても出席できなかった受講生のために、あらかじめ補習時間を設けておきます。

夏休みなど長期休暇を利用する短期集中スタイル

夏休み、冬休みなど、長期休暇を利用するスタイルです。短期で行うため復習の必要はありませんが、各回が長時間になるので、集中力を途絶えさせない工夫が必要です。



「自立 UP プロジェクト」参加施設

◆児童養護施設（13 施設）

生長の家神の国寮
救世軍機恵子寮
救世軍世光寮
二葉学園
今井城学園
西台こども館
道心園東ホーム・西ホーム
筑波愛児園
至誠学園
目黒若葉寮
朝陽学園
ベトレヘム学園
若草寮

◆自立援助ホーム（7 施設）

あすなる荘
マラナ・タ ハウス
聖家族寮ミカエラホーム
実家
まつぼっくり
マナの家
カリヨンタやけ荘

◆アフターケア相談所（1 施設）

ゆずりは

東京ボランティア・市民活動センター

～支援が必要な人・団体と支援をしたい人・団体をつなぐ～

市民たちの主体的で営利を目的とせず、他者や社会のために行われる活動（市民活動）を推進・支援することを目的とし、1981年に設立され、社会福祉法人 東京都社会福祉協議会が運営している。全国にあるボランティア・市民活動センターとのネットワークを活かしながら、ボランティアやNPOに関する相談、情報提供、研修、ネットワーキングなどの各種事業を実施。また、企業の社会貢献活動や社員のボランティア活動についても積極的に支援している。

〒162-0823 新宿区神楽河岸 1-1 セントラルプラザ 10 階

TEL:03-3235-1171 FAX:03-3235-0050 E-mail: center@tvac.or.jp

URL: <http://www.tvac.or.jp/>



2012年11月発行

発行●東京ボランティア・市民活動センター、日本マイクロソフト株式会社

制作●NPO法人「育て上げ」ネット、東京ボランティア・市民活動センター、

本書は、児童福祉施設の青少年の自立・就労支援のために開発されたものであり、商用利用を禁じております。

本書の著作権は日本マイクロソフト株式会社が保有しています。本書に掲載された事項およびデータは、著作権法上、個人で使用する以外、無断で複製、複写、転載、再配布することを禁じられています。

Microsoft、Windows、Office、Word、Excel、PowerPoint は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。本書中に登場するアプリケーション名などは一般に各メーカーの登録商標です。本書には ©、®、TM マークは明記しておりません。